

大阪市立鯨江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】	
① 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、自尊感情や規範意識に関連する次の各項目について「当てはまる」と回答する児童の割合を昨年度より増加させる。 ・自分にはよいところがある。 ・宿題や勉強道具を忘れずに持ってきてている。 ・きまりや約束事を守っている。 ・あいさつをしている。 (カリキュラム改革関連)	B
② 本年度末の本校の保護者アンケート調査で「集団意識を高めるとともに、豊かな心を持った子どもを育てようとしている」と回答する保護者の割合を昨年度より増加させる。 (マネジメント改革関連)	
③ 本年度末の本校の学校生活アンケート調査で、「災害や事故・事件などから身を守るためにどのように行動したらよいかを知っている」と回答する児童の割合を75%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【道徳教育の推進】各月の生活目標を、児童に周知するために児童朝会で毎月曜日に講話するとともに、学期に1回強調週間を実施する。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 生活強調週間を年3回実施し、チェックカードにより児童の実態を把握する。	
取組内容②【道徳教育の推進】 児童会を中心にあいさつ運動を行い、「あいさつ」に対する意識を高める。 (カリキュラム改革関連)	B
指標 強調週間を年2回実施し、アンケートによる児童の実態を把握する。	
取組内容③【人権教育】 人や自然との多様なふれあいを通して、自尊感情や思いやりの心を培う。 (カリキュラム改革関連)	
指標 次のような行事や活動を実施し、児童の活動の様子の観察や事後の活動・作文等により心の育ちを把握する。 ・異学年や地域の方と交流する場を設ける。（各学年、年間計画に合わせて実施） ・自然や環境について考える機会を設ける。（各学年1回以上） ・質の高い文化（音楽・絵画・芸術等）にふれる機会を設ける。（各学年1回以上）	B
取組内容④【防災教育の推進】 年間計画に基づいて、災害時に備えた訓練を継続して実施する。 (カリキュラム改革関連)(マネジメント改革関連)	A
指標 通常の訓練を年3回、地域と連携した訓練を年1回実施する。	

取組内容⑤【安全教育の推進】

PTA・地域との連携により、登下校の安全を確保するとともに、校内での安全な生活への意識を高める。
(カリキュラム改革関連) (マネジメント改革関連)

指標 ○次の2点でPTA・地域との連携を図る。

- ・定期的に行われている連携の継続
- ・懸案事項等が発生した時のスムーズな連携

○意識付けを図る強調週間の実施（生活強調週間を年3回実施する。）

○意識調査（生活強調週間のチェックカードで安全意識の高まりを把握する。）

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①【道徳教育の推進】

生活目標を周知することや、生活強調週間を年3回実施し、点検表でチェックすることにより規範意識は高まってきた。また、忘れ物や廊下・階段の正しい歩行についても、学校アンケートや点検表でも「できている」と自覚している児童が年間通して80%超えている。

取組内容②【道徳教育の推進】

強調週間の時はチェックカードにより意識が高まり、積極的に挨拶する児童が増えてきている。しかし、強調週間以外の時は意識が薄れ、進んで挨拶したり、大きな声であいさつしたりできる児童が少ない。

取組内容③【人権教育】

児童集会や行事の中でたてわり班活動を積極的に取り入れ、互いの良さや違いを認め合えるような活動を実施した。昔遊び大会や城東園訪問、鯰江東音頭の指導などで地域の方と定期的に交流を行った。劇鑑賞会では質の高い文化に触れる機会を設けた。イネの収穫やモツゴの放流などで自然や環境について考える機会を設けた。学校生活アンケート調査の「自分にはよいところがある」の項目では、「あてはまる」と回答した児童の割合が昨年度末より微増している。

取組内容④【防災教育の推進】

年間計画に基づいて実施し、学校生活アンケート「火事や地震のときに身を守る方法を知っていますか」の項目では昨年と同様に、約9割の児童が「知っている」「だいたい知っている」と回答し、防災意識の高さが表れている。

取組内容⑤【安全教育の推進】

PTA・地域の方の協力により、登下校の安全を確保している。しかし、下校時に車道に飛び出すなど交通のきまりを守らない児童もいる。安全に対する意識が高いとはいえない。

次年度への改善点

- ① 児童の意識と実態が必ずしも一致していないところがあるので、今後も生活強調週間を設けたり、児童会での取り組みを活用したりするなど、規範意識をより高めていく指導を徹底する。また、機会をとらえて保護者へのさらなる協力を求めていく。
- ② 例年同じ取り組みをしているが、児童の意識の高まりがみられない。登下校時のあいさつや、来校者へのあいさつなどの指導を高い意識で行っていく必要がある。
- ③ 今後は、自尊感情を持ちにくい児童の理解を深めていくことが課題である。
- ④ 本年度と同様に防災訓練や避難訓練を行い、高い防災意識を維持する。また、警備・防災計画や危機管理マニュアルを避難訓練のときに活用して周知する機会を設けるようにする。
- ⑤ 安全に対する意識を高めるために、児童朝会や学級での声掛けをするなど、今後も指導していく必要がある。